

一 一般 デジタル行政構想＋SDGs 118
小林 博文（市民ネット）



行政のデジタル化推進により、職員の仕事効率化と市民の利便性を上げる。また、持続可能な社会構築を目指すSDGsを行政へ取り入れ、この二つを融合して、市民福祉の向上、職員の働き方改革・作業の効率化を8（無量大）にしていく事を提案するために行政側の考えを問う。

◎ 様々なデジタル技術を行政へ、将来どのように活用していくのか。
A 市としてAI、ICT等の革新技术の活用に取り組んでいる。明確な回答は難しいが、行政情報のオープンデータ化と各種申請のオンライン化を推進していく。

◎ 持続可能な社会の構築SDGsを行政へ、どう組み入れ活用するのか。
A バッジ着用で職員の意識高揚や施設への目標表示で市民の理解を深める。市の政策や施策はSDGsの理念に該当している。次期総合戦略等へも視点を取り入れていく。



◎ 各スポーツ施設や地区センターの予約をインターネットを介して行う考えは。
A 施設予約状況閲覧システムを使用しての予約を検討中だが、複雑で課題があり導入に至っていない。

◎ 広報菊川等の自治会へ依頼している回覧物をスマートフォン等のアプリケーションにより市民へ提供する考えは。
A 回覧物は電子化、多言語対応に取り組んでいる。アプリケーションは普及に時間がかかる。手軽で効果的な配信方法を研究していく。

一 一般 集中豪雨・暴風雨時の課題と対策
山下 修（みどり21）



◎ 避難状況の把握、避難所の指定・開設の課題は。
A 地域の公会堂など任意の避難所の状況について、すべての把握はできていない。今後の課題については、避難所の運営、環境改善、指定避難所の見直しなど多くの課題があるが、地域の方の協力をいただき進めている。

◎ 黒沢川地区などにおける内水面氾濫の原因と対策は。
A 主な原因は、牛淵川本線の水位が下がらなかったため、支線の河川に影響したことだと認識している。国土交通省の補正予算等により、菊川や牛淵川において河道掘削や堤防補強など計画に基づき整備しているが、抜本的な対策も協議を進めたい。

◎ 立地適正化計画の策定において、豪雨災害リスクを考慮した居住誘導地域の検討は。
A 用途地域内において一定以上の人口が集中し、生活の利便性や公共施設等が持続的に確保される

よう、居住を誘導すべき区域として、土砂災害特別警戒区域や一定以上の浸水深が想定されるエリア等、災害リスクのある区域を除外するよう検討している。

◎ 暴風雨に対する、森林管理の対策は。
A 管理されていない森林の増加は、土砂災害や、倒木による送電線の破損に伴う停電の原因となると考えられる。適正な管理の周知と、森林経営管理制度の活用を検討していく。

他に「ジャンボタンシ」による水稲被害と対策について質問しました。



▶総合的な治水対策のイメージ図（国土交通省HPから引用）